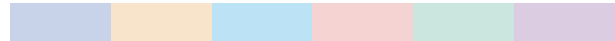


本編



第2次札幌市観光まちづくり プランの策定に当たって

1.1. プラン策定の背景と目的

札幌市では、平成 25 年度（2013 年度）に地域の魅力あふれるまちづくりと観光振興を一体的に進めるという考え方のもと、平成 25 年度（2013 年度）から令和 4 年度（2022 年度）までを計画期間とする「札幌市観光まちづくりプラン」（以下、前プランという）を策定し、様々な観光施策に取り組んできました。この間、訪日外国人観光客の好調な伸びを主因として、札幌市を訪れる観光客は大きく増加し、総観光消費額も増加するなど、取組の効果が見られる一方、観光消費額単価の伸び悩みや繁閑差の大きさなどの課題も残っています（前プラン期間中の各数値の推移や前プランの振り返りについては、第 3 章及び資料編に記載しています。）。

また、令和 2 年（2020 年）前半からは新型コロナウイルス感染症の流行により観光客数は大幅に減少し、特に訪日外国人観光客は激減するなど、市内の観光産業は大きな打撃を受け、現在もその影響は続いています。

そのため、早期に札幌観光を復活させるための取組が求められていますが、コロナ禍を契機として、これまでとは異なる旅行ニーズや、持続可能性への意識の高まりが加速するなどの変化が生じており、今後は単にコロナ禍前の状態への回復を目指すのではなく、こうした変化への対応が求められます。

このような状況の中、国においては、観光を巡る近年の情勢の変化を踏まえて、令和 5 年（2023 年）3 月に新たな「観光立国推進基本計画」を策定し、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の 3 つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の 3 つの戦略に取り組むとしています。

今後は、より質の向上を重視した観光への転換が求められており、経済的側面からは、高い付加価値の提供や、滞在日数の長期化、単価の高い客層の誘致などにより、来訪客一人当たりの消費単価を増大させていくことが重要です。同時に、社会的側面から、環境負荷の低減、市民生活にも配慮した観光まちづくりを進める必要があります。

観光のプラス面を最大化し、マイナス面を最小化していくことが重要であり、そのためには、適切なマネジメントを行うための体制の充実、財源の充実などに取り組む、持続可能な観光地経営を推進していくことが必要です。

札幌市においては、令和 12 年度（2030 年度）末の北海道新幹線の札幌延伸、都心の再開発の加速やハイグレードホテルの建設など、国内外からの誘客促進が期待できる数々の機会が訪れます。

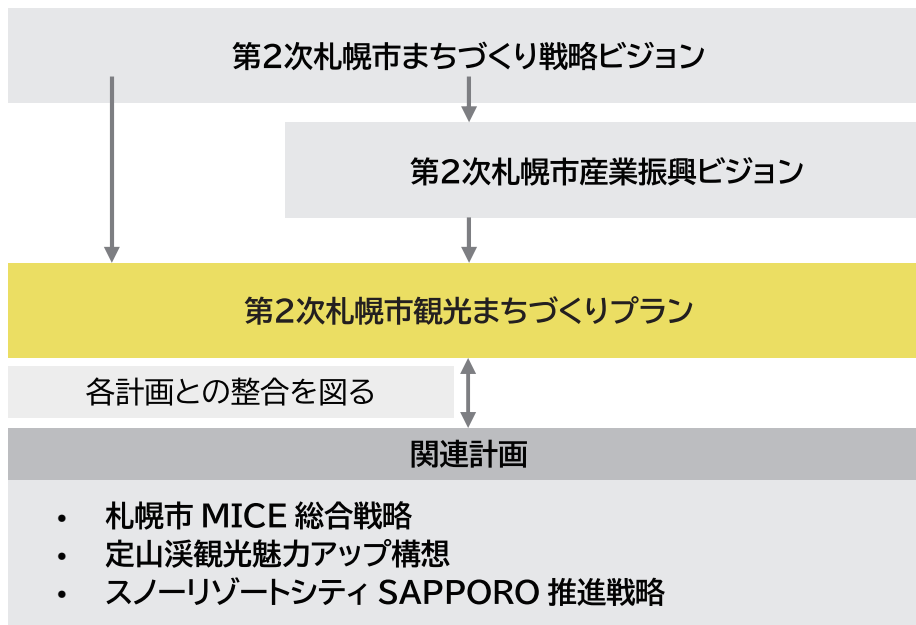
観光を巡る近年の情勢の変化に適切に対応するとともに、訪れる機会を最大限に生かし、世界から選ばれる持続可能な観光地として札幌が更に発展していくため、今後 10 年間の観光に関する取組の方向性を示すことを目的として、本プランを策定しました。

1.2. プランの位置づけと計画期間

本プランは、札幌市の長期的な総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」で掲げる基本的な方向に沿った個別計画として位置づけられています。また、札幌市における持続的な経済発展を目指して取り組むべき施策の方向性をまとめた「第2次札幌市産業振興ビジョン」では、札幌市経済の成長をけん引する重点分野の一つとして「観光」を掲げており、本プランは、この「第2次札幌市産業振興ビジョン」の観光分野の個別計画としての性格も有しています。さらに、本プランには、観光に関する3つの個別計画が関連づいており、各計画との整合を図ることが必要です。

なお、本プランの計画期間は、令和5年度（2023年度）から令和14年度（2032年度）までの10年間としますが、社会情勢の変化等に応じて、策定後5年を目途に改定を検討します。

図表 1



1.3. 観光振興の意義

ここでは、なぜ札幌市が観光に取り組むのか、その意義を改めて示します。

① 経済効果

観光は、運輸業や宿泊業、旅行業に加えて、市内に多い飲食業や小売業など様々な業種と関連する、すそ野が広い産業であり、市内での観光消費は地域経済全体に高い経済効果をもたらします。多くの雇用を生み出し、市民の暮らしを支えるとともに、地域に賑わいを創出します。さらに、観光関連事業者や従業員からの税収は、より魅力的なまちづくりを行うための重要な財源となります。

また、札幌は北海道への旅行者の多くが来訪する北海道観光のゲートウェイであり、また、道内他地域の魅力にも触れることのできる、魅力のショーケースとしての機能を果たしています。そのため、多くの観光客が札幌を訪れることは、北海道各地への送客につながり、道内全体の経済循環を高めることに貢献します。

② 成長性

観光は大きな伸びしろのある産業です。近年では、訪日外国人観光客の大幅な増加を背景に、観光GDPは市内総生産を上回る伸び率で拡大し、札幌の経済成長をけん引してきました。今後も、札幌・北海道の魅力を生かし、成長が見込まれる国際観光需要を取り込むことにより、更なる成長が期待できます。

図表 2 | 市内総生産と観光 GDP

	平成22年度 (2010年度)	平成26年度 (2014年度)	平成30年度 (2018年度)	平成22-平成30年度 増減率
市内総生産 (名目、億円)	63,136	65,823	70,531	11.7%
観光GDP (名目、億円)	2,459	3,027	4,161	69.2%

出所) 札幌市資料

③ 人口減少期における重要性

コロナ禍前の平成 30 年度（2018 年度）の市内の総観光消費額は 5,780 億円でした。これは札幌市民 1 人あたりの年間消費額（121 万円）の約 48 万人分（そのうち、海外客の総観光消費額は 2,871 億円で市民 24 万人分）に相当し、市内消費に大きく貢献しています。これまで増加の一途をたどってきた本市の人口も減少局面を迎え、市内消費の減少が懸念される中においては、国内外から人を呼び込み消費を獲得できる観光の重要性は、これまで以上に高まります。

④ 市民生活の豊かさの向上

多くの観光客が札幌を訪れることは、市民と観光客の双方にとって、過ごしやすく、魅力的なまちづくりに貢献します。例えば、多くの人が集まることにより、飲食・買物スポットの充実や、飛行機・バス・鉄道などの公共交通機関の路線や便数の維持・拡大、市民も観光客も楽しめる様々なイベントの充実・継続的な開催などにつながります。また、高齢者や障がい者、外国人等の様々な方が楽しめるよう、バリアフリーをはじめとするユニバーサルデザインの導入などの環境整備の促進にもつながります。

さらに、観光客が札幌の自然や歴史、食文化やライフスタイルに触れてもらうことを通じて、市民自らもその価値を再認識し、自らが住むまちに対する愛着や誇りを醸成することにも貢献します。

⑤ 観光を通じた交流の効果

観光客との直接的な交流を通じて、異なる文化や習慣、価値観などへの市民の理解が育まれることで、多様な生き方や考え方などを認め合う意識の醸成が促進されます。

また、観光を通じて、市民と国内外の多様な人々との交流が活発になることで、市民の間に新たな考え方や視点、刺激がもたらされ、まちづくりやビジネスなど多方面で創造的な活動が生まれる基礎を作ることにも貢献します。